

はくぼく

No192 2012-11-30(金)

責任者 三 浦 真 吾

事務局 吉 田 朝 夫

釧路市美原3丁目57-4 TEL 36-7426

追悼のことば

釜 范 剛 さんへ

剛さん。私より先に逝ってしまったなんて駄目でしょう。剛さんとは退職後も、もつと永く一緒に人生を楽しみたかったですね。学校のクラブ活動では、女子バレーボールの監督同志で決勝戦で激突することが多くて、子ども達にライバル意識が育って、新川アタックカーズの子ども達には特別の決意で戦っていました。我が桜が丘ファイターズの子ども達は、剛さんの監督の優しさをみていました。失敗しても決して選手を怒らない監督さん。どんな選手を載せていく。選手に、やる気を起こさせる監督さんと評判でしたよ。一九八二年でしたか、釧路代表で新川と桜が丘チームが全道大会に出場したときも、釧路勢同志で決勝を闘ったこともありました。帰りの汽車の中では一緒の席になり和気藹々。釧路まで帰ってきたことも忘れられません。又、小学校のバレーボール委員会の役員選別のときも、なり手がなくて困っていたときも、私と剛さんが、委員長と副委員長を引受けて、三年程苦労して運営しましたが、剛さんの手腕でうまく運営できたと感じています。また、剛さんのスキーマのうまさもたいしたものでした。ね私の憧れの滑りをしていましたね。退職後も家族で奥さんも娘さん達も剛さんの指導で、きれいな滑りをしていました。家族で楽しまれていたのを観て、うらやましく思いました。そのスキーマも剛さんと滑る楽しみもなくなりました。残念です。そのうちにあの世で又会いましょう。その時は、思う存分元気でいっぱい滑りましょうね。

七 田 次 光

訃 報

釜 范 剛 さん 逝 去

今日の朝刊(十三日)を見ましたら、釜范剛さんの死亡広告が目に入り、驚きました。以前から、体調をくずして何度も入院されていたとの事は聞いていましたが、こんなに早く逝去されとは思いませんでしたので、本当に驚きました。通夜の席に参列してきましたが、たくさんの弔問の方で会場はいっぱいでした。退職教の人たちも何人が参列されていたようです。

読経の後の挨拶の中で、生前の生い立ちや功績について語られていました。が、運動能力抜群の先生で、子どもたちのバレー同好会の指導では、多くの優勝に導くなどの力量抜群の先生だったそうです。多くの子どもたちから慕われていたとのことでした。スキーも大変上手だったと聞きました。退職後は体調をくずし、パーキンソン病という難病に見舞われ、治療に苦労されていたとのことでした。釜范さんといえば剛・健・尚さんの三兄弟で道退教会員として加入されているのは、珍しいと話題になっていましたが、このたびのご逝去で兄弟二人会員になつてしまいました。謹んでご冥福をお祈り致します。

署名集約締め切り

「教育条件の改善を求める請願署名」の集約期が迫りました。

十一月四日(火)が最終集約です。お手元の署名を早めに送付下さい。

現在の署名数四五〇筆です。

囲碁・麻雀交流大会終わる

〔十一月十七日、全教組会館和室にて十一名の参加〕

過日、十一月十七日、退職教行事である年金者組合と共催の「囲碁・麻雀交流大会を全教組会館において開催しました。参加者は体調をくずしたり、用事があったりして、いつもの顔ぶれが揃わず、些か淋しい人数でしたが、囲碁三名、麻雀二卓八名の計十一名の参加者でした。囲碁が三名沢山居りますが、この行事には中々足が向かないようです。囲碁も和泉さんや東海林さん、田中智さんという常連の欠席などで、ちよっぴり淋しい雰囲気でした。しかし、少ないなりにみんな集中して楽しみました。それぞれの成績は次の通りです。

囲碁の部

麻雀の部

- ★優勝 三浦真吾さん ★優勝 古田義仁さん
- ★二位 釜范健さん ★二位 大西勝雄さん
- ★三位 大嶽正道さん ★三位 吉田朝夫さん

釧路教第50回記念レセプション

期 日 十二月一日(土) 午後六時

場 所 釧路市アクアホール2階中ホール

内 容 釧路教50回記念レセプション

参加費 四千元(当日会場にて徴収)

※ すでにご案内がお手元に届いていると思いますが、お知らせいたします。この「はくぼく」が、三〇日付の発行ですので、行き違いになってしまいました。尚、当日の十二時半から「釧路教第一〇〇回記念集会」が、釧路市交流プラザさいわいを会場に開催されます。

過日、役員会の折に、千葉さんから、かつて釧路に住んでいた私たちの大先輩で、各種の選挙に立候補するなどの活躍をされていた畑佐美好さんが、現在伊達市に移住され、奥さんとお二人で生活しており、長い釧路の生活が懐かしく、様子が知りたいとのことで「はくぼく」を送ってほしいという事になり、先日手元にあった「はくぼく」を何枚か送りました。そのお礼のお便りが届きましたので掲載しました。畑佐さんの体調を崩したとのことですが、健筆振りが感じられました。

朝夫さん、暫くです。この度は懐かしい「はくぼく」をどうもありがとうございました。津崎さん、千葉さん、朝夫さんの心遣いに感謝しながら読ませてもらいました。共にがんばってきた旧友たちに紙面であつても久ぶりに出会うことも嬉しかったです。この日、妻にも釧路新婦人結五〇周年の素晴らしい冊子が届き、「今日は釧路デーだ」と喜び合ったところです。

私たち三人の子ども(長男は登別一人は札幌)達から転居について何回も勧告され、最後は「老いては若きに從え」と、伊達に移住してすでに十年が過ぎました。

今では党や新婦人の仲間、赤旗読者、近所の人等々、知人友人が沢山できて私たちも伊達の人になりました。

伊達は「北の湖面」と言われるだけあつて、気候温暖で(春が早く、冬が遅い)とても住みよい町です。

私は畑を少しだけ借りて農家の真似事をしていますが、とうきび、玉ねぎ、さつまいも、里いも、西瓜、メロンなど露地で作っています。今年は暖かかったせいか、なすびが一本の木から三〇個、胡瓜が三五個も採れ驚いています。

伊達は西胆振の中心都市で、わずか3、5万人の町にスーパーがイオン、ラルス、生協、JA、地元資本の店などとてもにぎやかです。町が小さいので市役所、郵便局、病院、銀行などが固まっています。高齢者にとっては大変便利です。病院(日赤など)福祉施設(太陽の園など)も多くて助かっています。又、市内に温泉が二箇所あり、昭和新山洞爺湖温泉には車で十五分ほどで行けます。隣の壮瞥町は余市、仁木に次ぐリンゴ、ぶどうを中心にした果樹園があり、美味しい果物が食べられます。こんなことで伊達で長生きできると思っていました。ところが、四年前に胃がん(末期、進行性)が分かり、全摘手術(妻や子ども達には半年の告知あり)をし、その後、抗がん剤治療をずっと続けて、なんとか今日まで延命できています。今年の四月には胆のうも切除し(着られノ与三郎です)ました。胃が小さいことによる後遺症と抗がん剤による副作用、それに八四才の高齢も重なり、体重も五九kgになり、(骨と皮ばかり)少々苦勞をしています。最近になって、がんが肝臓などにも転移していることが分かり、全く最悪の状態になっています。そんなことで何時、どんなことになってもあわてないように心の準備だけはしているつもりです。気力でガンに負けないように努力し、一日一日を明るく大切に過ごしたいと思つているところです。幸いなことに、まだ今は市内だけなら車の運転も出来ますので、妻と二人で赤旗の配達、集金、ポスター貼り、妻がピラ配りなどをしていきますが、私は支部会議を休ませてもらっています。残念です。

転居してからまだ釧路には一回も行っていない。

体力的に行けません。私たちが釧路を去つてから、矢部さん、樹下さん、宮本さん、遠藤トヨさん、辻弘さん、杉澤さん、等々の旧友が亡くなり、とても寂しです。

今度は「はくぼく」で、辻日出男さん、藤原さんの死居を知りびっくりしました。

「はくぼく」は毎月発行しているんですね。ずいぶんがんばっているなあと感じました。

私には毎月必要ありませんので、気づかれたときだけ送って下さい。せめて郵送料と思いましたが、かえって拘束してしまいますので送りませんのでどうぞあしからず

私の旧友に会いました折にはよろしくお伝え下さい。お礼の気持ちを含めて、ぐだぐだと書きましたのでご判読下さい。

アメリカ、財界言いなりの政治の転換が強く求められています。共にがんばりましょう！
追伸

羊蹄山に雪が降り、とても美しく見えます。ここからは噴火湾の有珠山も含め、元気な時に登山した山々なのでたいへんなつかしいです。

畑佐さんの釧路への望郷の想いと、現在の心境を細かに語る便りでした。病状が案じられますが、お大事にと言うコトバしありません。畑佐さんと旧知の方は、是非、近況のお便りを差し上げてはいかがでしょう。住所は

〒052-0011

伊達市竹原町七七番四四

畑 佐 美 好さん

TEL 0142-25-7751

わたしの近況

荒木千枝子

「元氣」だけがとりえのような私も、とうとう「古希」をむかえてしまいました。そろそろ身辺整理もしておかないと、体調のことか考えると、不安材料がいっぱいあります。でも、退職後の仲間の集いに出ると、元氣な先輩が大勢いらついでいますので、勇氣をもらって帰つてくれる幸せを感じています。